

平成29年度行政事業レビューシート (

総務省)

事業名	電子政府関連事業 (ICT人材育成)			担当部局庁	行政管理局	作成責任者	
事業開始年度	昭和35年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	行政情報システム企画課	課長	千葉 博
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	○総務省設置法第4条第10号及び12号 ○高度情報通信ネットワーク社会形成基本法第20条			関係する計画、通知等	○政府における電子計算機利用の今後の方策について(昭和48年8月30日閣議決定) ○e-Japan重点計画-2002(平成14年6月18日IT戦略本部決定) ○電子行政推進に関する基本方針(平成23年8月3日IT戦略本部決定) ○「世界最先端IT国家創造宣言」(平成25年6月14日閣議決定)及び同工程表 ○「政府機関におけるセキュリティ・IT人材育成総合強化方針」(平成28年3月29日サイバーセキュリティ対策推進会議(CISO等連絡会議)、各府省情報化統括責任者(CIO)連絡会議決定) ○世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画(平成29年5月30日閣議決定) ○デジタル・ガバメント推進方針(平成29年5月30日IT戦略本部・官民データ活用推進戦略会議決定)		
主要政策・施策	IT戦略			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	行政の情報化が広く深く浸透してきた中、各府省における情報システムを活用した業務改革・サービス向上等を担う人材、情報システムの中核的要員を計画的に育成・確保することにより、政府内のICTガバナンスの強化・徹底及びICT人材の育成・活用を実現すること。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	以下の分野において、集合研修及びeラーニングを実施している。 ①PMO構成員、PJMO構成員等橋渡し人材に対する研修 (注)PMO(program management office)は各府省のIT統括組織、PJMO(project management office)は各府省でITを担当している主な部局をいう。 ・重点分野別研修(調達・積算、プロジェクトマネジメント、情報セキュリティに関する研修) ・情報技術分野(データベース、ネットワーク)に関する研修 ②情報リテラシー向上に関する研修等 ③府省共通システムの利用者等に対する研修 平成28年度は、集合研修10コース25回、eラーニング10コース40回実施(随時実施している③を除く)。						
実施方法	直接実施、委託・請負						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
		計	89	89	92	181	128
	執行額	87	81	75			
	執行率(%)	98%	91%	82%			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	98%	91%	82%				
平成29・30年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由			
	機器調達	54	48	・機器調達:国庫債務負担行為に契約額を反映させたため。 ・システム設計・開発:橋渡し人材対応の改修が29年度に終了するため。 ・運用管理:橋渡し人材改修により運用管理するデータが増加する等のため。 ・研修実施:教材の脱Flash化が29年度に終了するため。			
	システム設計・開発	37	6				
	運用管理	27	32				
	研修実施	63	42				
	その他	0	0				
	計	181	128				

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標最終年度	
				年度	年度	年度	年度	30年度	
平成30年度に、情報システム統一研修(集合研修)の定員を1,200人以上にする。	情報システム統一研修(集合研修)の定員	成果実績	人	-	-	1,104	-	-	
		目標値	人	-	-	1,000	-	1,200	
		達成度	%	-	-	110.4	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	集合研修の修了者数								
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込	
	情報システム統一研修の集合研修コース開催数	活動実績	回	24	25	27			
当初見込み		回	23	25	25	34			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	30年度活動見込	
	情報システム統一研修のeラーニングコース開催数	活動実績	回	37	40	40			
当初見込み		回	37	40	40	144			
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	年度執行額(円)÷集合研修等受講延べ人数	単位当たりコスト	円/人日	11,467	4,165	2,666	4,457		
計算式		/		21,007,945円/1,832人日	17,326,960円/4,160人日	13,169,797円/4,939人日	35,159,000円/7,888人日		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	年度執行額(円)÷eラーニング受講延べ人数	単位当たりコスト	円/人日	5,413	1,720	1,473	3,354		
計算式		/		64,939,512円/11,997人日	63,280,524円/36,786人日	61,848,017円/41,978人日	146,240,000円/43,600人日		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	IV. 電子政府・電子自治体							
	施策	電子政府・電子自治体の推進							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標年度
		情報システム統一研修(集合研修)の定員	実績値	人	-	-	1,104	-	-
			目標値	人	-	-	1,000	-	1,200
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	職員のICT能力、情報システムのマネジメント力を育成し、電子行政推進の担い手を輩出する。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度
		-	成果実績		年度	-	-	-	-
目標値					-	-	-	-	
達成度	%			-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度	
	-	成果実績		年度	-	-	-	-	
		目標値			-	-	-	-	
達成度		%		-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明																	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	政府において、国民サービスの向上、業務の効率化等を図るためには、ICTの活用が不可欠であり、そのための人材育成は極めて重要となっている。																	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本研修は、国の行政機関の業務の特性(政策的な動き・状況等)を踏まえた情報システムに関する専門的な知識・技術を備えた中核的な要員を育成するとともに、セキュリティ・ITに関する一定の専門性と、所管行政に関する十分な知識・経験を有し、民間等の高度専門人材と一般行政部門との橋渡しをする「橋渡し人材」を育成する必要があるため、国において実施することが適当である。																	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	情報システムに係る業務の高度化への対応や、高まる情報セキュリティの脅威に対応し、情報システムを活用した業務改革・サービス向上等が行える人材を多数育成することが肝要であることから、本研修は適切かつ優先度の高い事業である。																	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調達は原則として、一般競争入札によって行っており、システムの運用・保守等については、結果として一者応札となったものがあるが、多くの事業者が参入機会を得られるよう入札参加要件の緩和等を行っている。																	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有																		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無																		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-																		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	従来から受講実績を踏まえた研修実施回数の見直し等により予算の削減を図っている。																	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-																		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は、情報システム統一研修の円滑な実施に必要なものに限定されている。																	
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-																		
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-																		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	eラーニングシステムを政府共通プラットフォームに移行させることにより、コスト削減を図っている。																	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	平成24年度以降、成果実績は成果目標をおおむね達成している。																	
関連事業	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-																		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	前年度の研修実績を踏まえて翌年度の研修実施計画を策定しており、おおむね見込みに見合ったものとなっている。																	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	作成した教材については、研修に使用するだけでなく、政府職員一般も利用可能となるように努めている。																	
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	所管府省名	事業番号	事業名																
所管府省名	事業番号	事業名																		
点検・改善結果	点検結果		<ul style="list-style-type: none"> ・25年度には、平成24年度行政事業レビュー(公開プロセス)での指摘を踏まえ、eラーニングコースの一部廃止等の見直しを実施した。なお、存続しているコースの受講者数は全コースにおいて前年度を上回った。 ・26年度には、「世界最先端IT国家創造宣言」(H25.6.14 閣議決定)及び同工程表を受け、研修コースの見直し、拡充に着手し、全体の受講者数を増加させた。このことから、ICT人材多数育成という目標に向け、一定の成果が現れている。 ・eラーニングシステム機器については、政府情報システムの統合集約の基盤となる政府共通プラットフォームへの移行を行った(平成25年3月)ことにより、更なる予算の効率化を実現している。 																	
	改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・本研修については、受講率等を省みるにより研修開催回数・開催日数等の見直しを実施するとともに、受講後の修了テストや受講者に対するアンケートの実施により研修効果を把握している。さらに、その結果を次年度の研修計画に反映する等の取り組みを実施しているが、今後も更に当該取り組みを工夫し、事業の効果を引き出すことに努める。 																	

外部有識者の所見

- ①29年度予算の、これまでに比べ倍近い増額の要因について、品目等は示されているが、それが何のための調達や設計開発なのか、説明が不足している。
②研修の定員(アウトカム指標)、開催数(アウトプット指標)が指標として設定されているが、研修の実施によってもたらされる人材の育成、活用についての指標が不足しているように思われる。

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の
一部改善の

更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改年
善度を
内
検に

- ①29年度の主な増額要因としては、機器調達の経費(国庫債務負担行為)が1月分から12月分に増加したこと、教材の脱Flash化が必要となったこと、橋渡し人材の育成に対応した機能を付与する改修が必要となったこと、などがあつた。
②IT人材の育成、活用の状況を表す指標については、各府省庁においてスキル認定される(予定の)橋渡し人材(統一研修の複数のコースを修了している者であることが原則)の数をを用いることが可能かどうか、検討してまいりたい。

備考

●平成24年度 公開プロセス、0033 電子政府関連事業(行政効率化支援)

【評決】

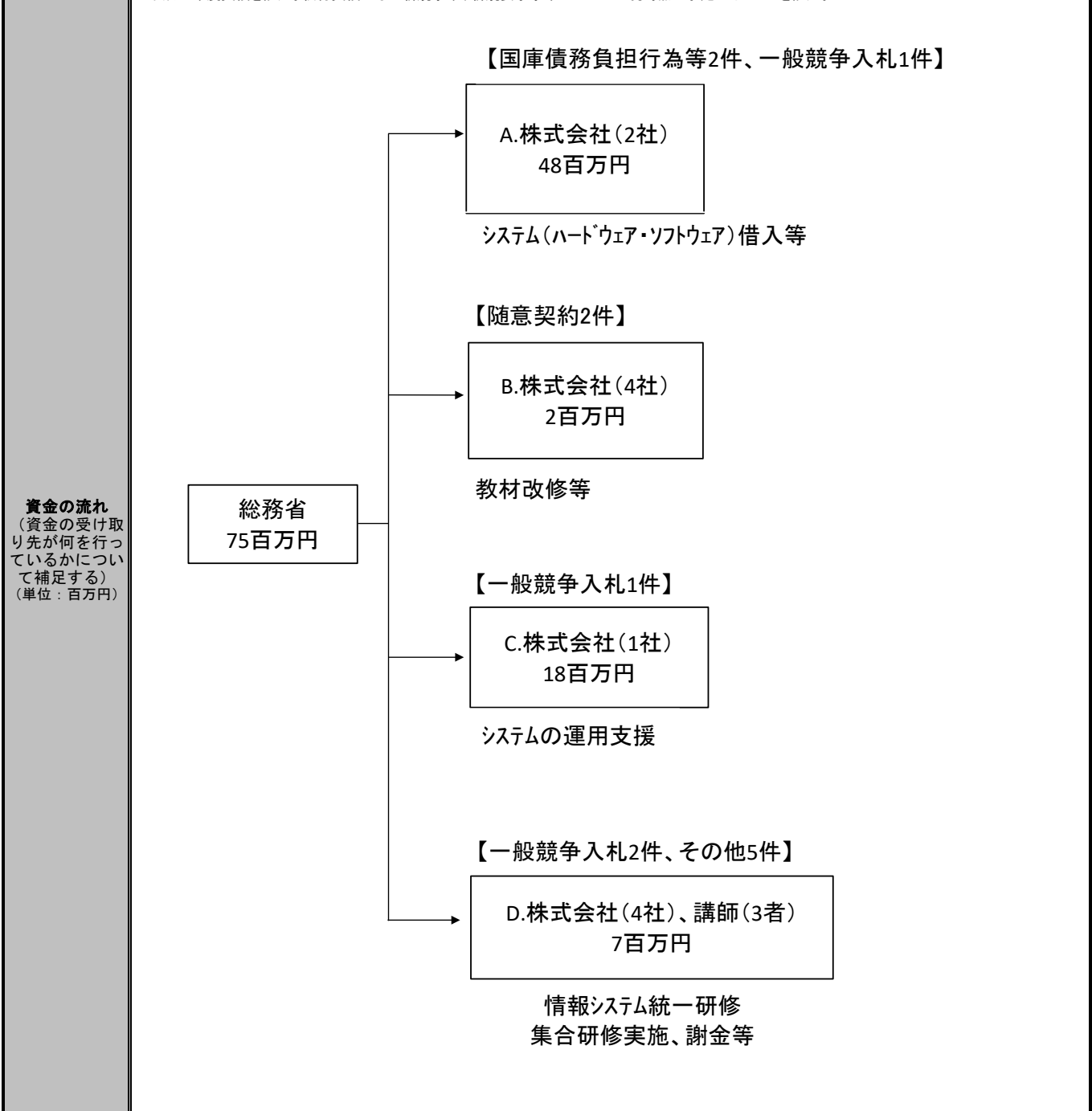
一部改善

【とりまとめコメント】

行政情報システム(年間経費約5,200億円)の管理運営を安全かつ効率的・効果的に行うため、また、日常の行政事務を効率的に執行するため、国家公務員にとって、情報セキュリティやシステム調達に関する知識の獲得や、民間と比較して遅れていると思われる情報リテラシーの向上に取り組むことは重要である。これらを踏まえ、将来的には研修のレベルを徐々に上げるなど抜本的改善を図ることを念頭としつつ、現時点においては、研修内容についてコンテンツの見直し等による一部改善を更に図っていく必要がある。

関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	33
平成25年度	36	平成26年度	35	平成27年度	
平成28年度	34				

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



A.(株)エヌ・ティ・ティデータ			B.アペイズム(株)		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
機器調達	eラーニングシステムのハードウェア、ソフトウェアのリース等経費	42	システム設計・開発	eラーニング用教材改修に係る経費	1
計		42	計		1
C.(株)NTTデータSMS			D.(株)アイ・ラーニング		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
運用管理	eラーニングシステムの運用支援業務に係る経費	18	研修実施	統一研修集合研修の実施に係る経費	2
計		18	計		2

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・用途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)エヌ・ティ・ティデータ	9010601021385	eラーニングシステムの更改(行為年度H24)	42	国庫債務負担行為等	-	-	-
2	東京センチュリーリース(株)	6010401015821	研修LANシステムの借入(再度公告)の契約延長(行為年度H27)	5	国庫債務負担行為等	-	-	-
3	東京センチュリーリース(株)	6010401015821	研修LANシステムの借入(行為年度H28)	1	一般競争契約(最低価格)	1	62.8%	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	アベイズム(株)	6013201000357	統一研修eラーニング用教材改修	1	随意契約(少額)	-	-	-
2	富士通(株)	1020001071491	統一研修eラーニング用教材改修	0.5	随意契約(少額)	-	-	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)NTTデータSMS	2010601032678	eラーニングシステムの運用支援業務の請負	18	一般競争契約(最低価格)	1	100%	-

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)アイ・ラーニング	1010001081896	統一研修集合研修の請負	2	一般競争契約(最低価格)	2	83.2%	-
2	(株)ブレインワークス	4140001010682	統一研修集合研修の請負	2	一般競争契約(最低価格)	3	39.4%	-
3	(有)ラーニングアーキテクチャ	4020002069664	統一研修講師に対する謝金	0.6	その他	-	-	-
4	(有)メイブルカンパニー	5011302009228	統一研修講師に対する謝金	0.6	その他	-	-	-
5	講師A(個人)	-	統一研修講師に対する謝金	0.5	その他	-	-	-
6	講師B(個人)	-	統一研修講師に対する謝金	0.5	その他	-	-	-
7	講師C(個人)	-	統一研修講師に対する謝金	0.3	その他	-	-	-

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1	A	東京センチュリーリース(株)	6010401015821	研修LANシステムの借入(行為年度H28)	1.4	一般競争契約(最低価格)	1	62.8%	-